

第40回日本看護科学学会学術集会 交流集会

【看護大学教員によるCOVID-19禍における
新人看護師に対するサポートシステムの実際
都内一大学病院の試みから】

東京慈恵会医科大学医学部看護学科
山下真裕子 佐藤紀子 福田美和子
石川純子 千吉良綾子



発表内容

1. 今回の取り組みの概要
2. 新人看護師の技術支援
 - 1) 口腔・鼻腔吸引
 - 2) 口腔ケア
3. 新人看護師のメンタルサポート
 - 1) 個別相談
 - 2) メンタルヘルス研修
4. まとめと提言

1. 今回の取り組みの概要

背景

2019年	12月	中国の湖北省・武漢市で原因不明の肺炎患者確認
2020年	1月	国内初の感染者が発生
2020年	2月	附属病院でCovid-19陽性患者を収容
2020年	3月	一部の病棟をCovid-19陽性患者専用病棟に転用、病棟スタッフの再編

以降も診療への打撃、従来なかった業務の出現、病棟の再編などが引き起こされた。



従来の新人看護師を対象とした集合研修が中止
新人看護師のメンタルヘルス支援を強化する必要性

大学教員による専門性を活かした 取り組み

【目的】

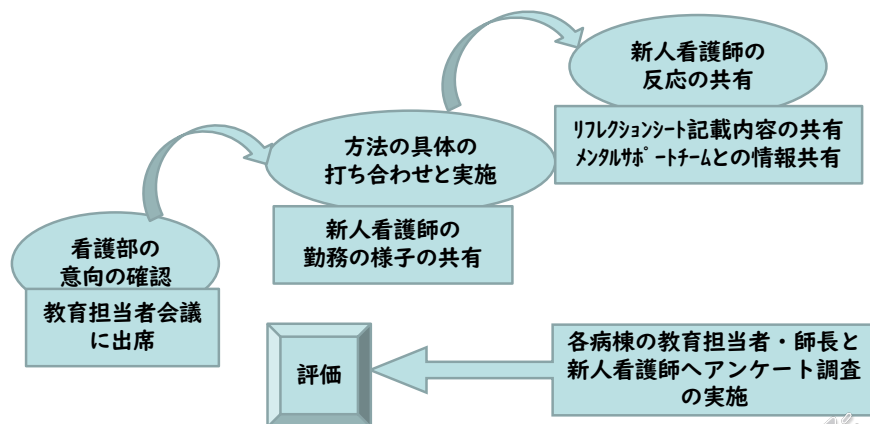
葛飾医療センター(一般急性期病床数約400床・新人38名)
に就職した新人看護師に対する技術支援(教員3名)
およびメンタル支援(教員2名)を行う

【支援内容】

- 基礎、成人、老年看護学を専門とする
教員による新人看護師の技術支援
- 精神看護学を専門とする教員による
新人看護師のメンタルサポート



看護部-教員の連携の具体



2. 新人看護師の技術支援

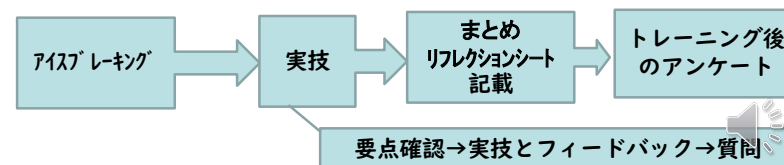
技術トレーニングの概要

目的：できていることとできていないこと
を明確にし、手技獲得に向け気持
ちが整理できる

技術トレーニングの展開方法

1グループ 2～3名、計7回実施

各回のタイムテーブル



口腔・鼻腔吸引

受講者の様子



配属先での吸引の機会を勧奨し
気管内も追加

- ・全員が1回は実施。
- ・実施しながら基本事項をその場で振り返った
- ・危険な行為は何かを確認することで、吸引手技への怖さをやわらげることに努めた



新人看護師の反応 (リフレクションシートのおまとめ)

- ・学生の頃演習で行ったが、配属されて新たに思った疑問が、モデルで確認できた
- ・実際の場面では緊張するし不安だが、手順や注意点さえ頭に入っていれば、それほど難しい技術ではないと思えた
- ・実際の患者を想定しながら技術を学べた



＊日々の実践を想定する構えがみえる反応

口腔ケア

・工夫点：配属先特性に応じた対象者を想定

内科全般病棟/全介助・認知症高齢者など
外科全般病棟/挿管・気管切開者など
手術室/術前口腔内アセスメントなど
ICU/挿管者の口腔ケアなど

・効果

自分の担当だけでなく、先輩が実践した対象者をも想起し、復習になっていた
実践的、応用的な質問がその都度出ていた

技術トレーニング全体の アンケート結果①

技術演習構成

	非常に満足	満足	不満	非常に不満	どちらとも言えない	無回答
回答数	10	20	0	0	0	1
回答率 (%)	32.3	64.5	0	0	0	3.2

- ・受け持った患者さんの状態を想像しながら口腔ケアでのポイントを知ることができた。
- ・口腔ケアと吸引は病棟でも合わせて実施することが多いため、連続してできてよかった。

最初から意図しなかったが、新人看護師からみて、関連しあう技術を抱き合わせて90分の技術トレーニングを実施したことの効果となった。

技術トレーニング全体の アンケート結果②

• 実際の臨床場面での発展

技術演習により自信が持てるようになった

	非常に満足	満足	不満	非常に不満	どちらとも言えない	無回答
回答数	5	24	0	0	1	1
回答率 (%)	16.1	77.5	0	0	3.2	3.2

- ・イメージがしやすくなった。
- ・演習後、病棟でも自信をもって実践できた。

自由記載

新人が全員「やってみたいです」と自分から言ってきてくれた。実際にやってもらうと以前だったら手が止まったりしていたが今回はそういうことがなかった。

「実際の場면을踏まえイメージ化を図ること」を促進する技術トレーニングとなった。それゆえ、根拠を大切にする姿勢にもつながった

技術トレーニング全体の アンケート結果③

技術演習の臨床での活用や応用

	非常に満足	満足	不満	非常に不満	どちらとも言えない	無回答
回答数	7	21	0	0	2	1
回答率 (%)	22.6	67.7	0	0	6.5	3.2

- ・この演習により、鼻腔吸引のコツがわかり、臨床でもうまく出来るようになった。
- ・演習通りに実際はいかないこともあるけど、基礎知識は役に立っています！

「基礎知識を応用しながらコツをつかむ」ための技術トレーニングとして新人看護師に位置づいていた

師長・現場教育担当者の反応 アンケート結果①

技術演習の実施について

	非常に満足	満足	不満	非常に不満	どちらとも言えない	無回答
回答数	7	10	0	0	0	0
回答率 (%)	41.2	58.8	0	0	0	0

- ・例年であれば年度後半に習得していて、どことなく不安そうな子が多かったが、今年は研修後から一緒に見せてほしいやらせてほしいとの声が多かった。

自由記載

・根拠が明確

・一方的に指導する場面がかなり多いと自覚しました。新人（受講する側）の考えを引き出したり、どういう風に捉えたかを確認することが必要だと感じました。ありがとうございました。新人はにこにこ、自己の意見を肯定されたり、緊張感も少なく、楽しそうでした。

看護学科教員が行った技術演習は、教育の専門家としてより具体的な根拠を示しながら分かりやすい指導となり、臨地で活かしている姿が、指導者にも見える支援となった

師長・現場教育担当者の反応 アンケート結果②

技術演習後の新人看護師のケア姿勢（自信や積極性など）

	非常に満足	満足	不満	非常に不満	どちらとも言えない	無回答
回答数	7	8	0	0	2	0
回答率 (%)	41.2	47.1	0	0	11.7	0

- ・今まで経験したことないほど積極的で驚いた。
- ・術前訪問の際などに患者様に口腔ケアの必要性をしっかり指導できていた。
- ・受け持ち患者に対してのみですが、ケアの自立を目指し積極的に声をかけてくれていると思います。

自由記載

病棟だと吸引している患者がいなければ口頭や図を使ってしかできないこともあり、説明の段階から演習を出来たほうが、新人がイメージしやすく、病棟でももっと積極的に動けている気がします。

普段であれば流してしまいそうな基本的なことについて、技術トレーニング時に確認したからこそ、新人看護師の自信や積極性につながったと評価できる。

技術トレーニングのまとめ

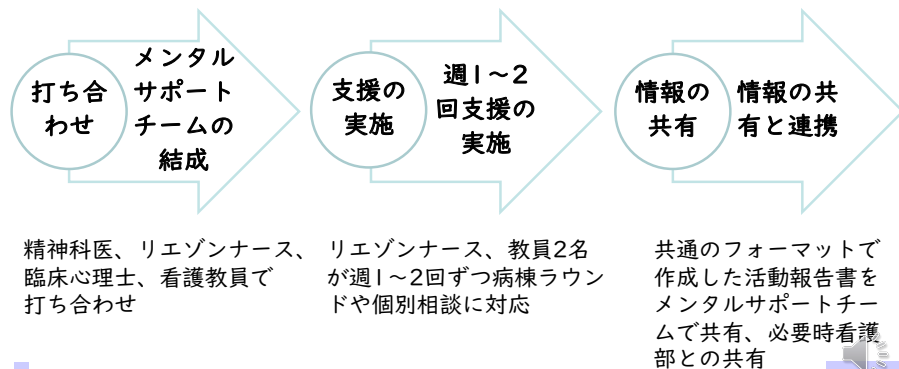
トレーニング準備を看護部と共有し、事後評価まで一貫した活動となった

- ・ 時期：5月直前の少し現場に慣れ、患者のイメージもでき、先輩の手技もみている という段階でタイムリーに実施できた
- ・ 内容：一般基礎技術であり、その関連性についても相乗効果が得られるものとなった
- ・ 規模：小グループのため全員が体験でき、質問も多かった

今後の検討課題

看護基礎教育での実習経験格差が今後懸念される中、臨床現場のみでなく、基礎教育教員とどのように技術獲得に関し協働できるか

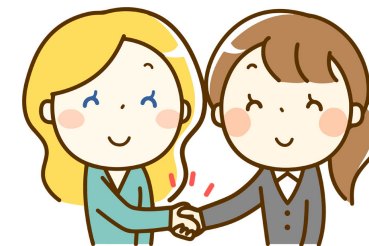
病院-教員の連携の具体



3. 新人看護師のメンタルサポート

支援の実際①

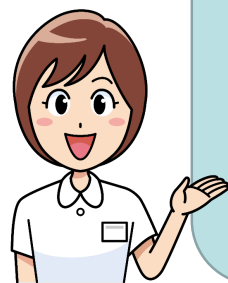
➤ 各病棟のラウンド（週2回）



顔の見える関係づくり

支援の実践②

➤ 個別相談



新人看護師さんのこころの健康をサポートします

社会人1年生の皆さん、何か悩みごとで困っていませんか？

◆個別の相談に応じます

◆事前にメールでお知らせください

先輩や同僚との関係に悩んでいる...
コミュニケーションが苦手...
看護職に向いているかわからない...
理由はよくわからないけど涙がでる...
最近仕事が楽しくなくなってきた...
など悩みの芽が小さいうちに一緒に考えていきましょう！

お気軽に
どうぞ！

毎週月曜日 14:00～ 石川 純子
(5/11, 18, 25)

毎週木曜日 14:00～ 山下真裕子
(5/14, 21, 28)



連絡先

山下真裕子: myamasrita@jikei.ac.jp
石川 純子: jishikawa@jikei.ac.jp
東京慈恵会医科大学 看護学科教員

個別相談の内容

身体は元気なのに、なかなか熱が下がらない

私だけ遅れてるかも？

できないことだらけで周囲に
迷惑かけちゃってる...
早く動けるようになりたい！

たくさん配慮してもらって、
休みも多いけれど、私だけ
休んでいていいのか？



不安を軽減できるような声掛け

予期せぬ副次的効果

- 個別面談の利用は数名であり「必要がなかったため、利用しなかった」という回答が多かった（アンケート結果より）。
- ラウンド時の直接相談が多く、新人の他にも看護師長やCovid-19専用病棟のスタッフからの相談を受けることもあった。

～今後の課題～

* 新人看護師への十分な周知・徹底
* 病棟内・病院内でのメンタルサポートをしあえる関係づくり

メンタルヘルス研修



【目的】

新人看護師がセルフモニタリング力を高め、ストレス状況下でも適切なセルフマネジメントが行える。

【方法】

事前に全新人看護師が参加できるように、教育担当師長と日程を調整した。

対象：新人看護師38名（19名ずつ2回に分けて）

形式・時間：90分の講義形式（感染対策のため）

メンタルヘルス研修

【内容】

- ・自己のストレス状態のチェック
主観と客観のずれの確認
- ・自己のストレス反応の確認
精神面、身体面、行動面への反応
- ・自己のストレス対処方法の確認
問題焦点型、情動焦点型、気晴らし型など
- ・ストレスマネジメントについて

コラム法、アサーティブコミュニケーション、リフレーミング、苦手な人との付き合い方、相談窓口の紹介など



新人看護師は熱心にメモを取りながら聴講していました！



メンタルヘルス研修

【新人看護師のアンケート結果】

研修の臨床や生活での活用						
	非常に満足	満足	不満	非常に不満	どちらとも言えない	無回答
回答数	6	20	0	0	5	0
回答率 (%)	19.4	64.5	0	0	16.1	0

・職場に少し慣れて疲れてたまっていく時期に研修してくれたのでありがたかったです。

自由記載

- ・個人的に学科の先生に会えたのは嬉しかったし気分転換になった。
- ・これからも機会があればやってほしいと思う。

メンタルヘルス研修を実施した時期（6月）は、新人看護師が職場環境に少しずつ慣れてくる一方で精神的疲労が蓄積しやすい時期ともいえる。
→タイムリーな時期の実施、病棟から離れ新人看護師だけの空間、新人看護師のストレス要因やストレス状態の共有、教員との再会などが満足度に繋がったといえる。

メンタルヘルス研修

【新人看護師のアンケート結果】

研修内容						
	非常に満足	満足	不満	非常に不満	どちらとも言えない	無回答
回答数	8	22	0	0	1	0
回答率 (%)	25.8	71	0	0	3.2	0

・実際に教員の方の話が聞けて良かったです。

研修方法（講義形式）						
	非常に満足	満足	不満	非常に不満	どちらとも言えない	無回答
回答数	7	22	0	0	2	0
回答率 (%)	22.6	71	0	0	6.4	0

・ストレスたまる前に発散していく。

・書き出す時間等があったよかった。

・同期と悩みを分かち合えたかったので、出来ればグループワークもあると良かったです。



メンタルヘルス研修

【教育担当者・師長のアンケート結果】

メンタルヘルス研修の実施について						
	非常に満足	満足	不満	非常に不満	どちらとも言えない	無回答
回答数	1	11	0	0	5	0
回答率 (%)	5.9	64.7	0	0	29.4	0

自由記載

- ・対象者はいなかったため具体的には分からないが、初期の時期、部署の管理者より学校の先生の方が些細なことを相談しやすく、大きなストレスを抱える前の対処につながるのではないかと考えています。
- ・今後も師長やエデュケーションナースが定期的に関わっていかないといけないと思う。

新人看護師は職場スタッフとの人間関係を構築しつつある時期

→病棟スタッフとの関係構築段階において、基礎教育に携わった看護教員の介入は効果的であったといえる。病棟スタッフとの関係性を築き、病棟内、あるいは病院内でメンタルサポートをし合える環境ができるまでの補完的役割を担った。

メンタルサポートのまとめ

- メンタルサポートチームの存在や役割を周知することで個別相談がさらに活用される可能性がある。
- 新人看護師に関わる師長を含めた看護職への支援は、新人看護師への間接的な支援につながった。
- 今後も病院内・病棟内のスタッフとは別に、リエゾンナースによる支援活動を継続する必要がある。

1. 現場の看護部長からの要請に対し、教育として何ができるかを検討し、教員の専門性を生かした活動ができた。

- 成人看護学/老年看護学/基礎看護学教員→技術トレーニング
- 精神看護学教員→メンタルサポート、メンタルヘルス研修

2. 新人看護師は、感染のリスクについて不安を感じつつも、技術を習得したいという強い思いを持ち、日々の仕事や研修に参加していることが分かった。コロナ禍の中で、新人は自分たちにできることをやりたいという思いを持っていることに気づくことができた。また、自粛を求められる日々の中で、自宅で一人で過ごすことよりも、仕事をして役立ちたいという思いを持っていることが分かった。

4. まとめと提言

3. 教員は、卒業生が現場で役割移行の課題に取り組み、看護師（社会人）として成長していく実相を垣間見ることができた。

4. コロナ禍における多様な不安を抱えていた看護教員は、現場で新人看護師や管理者とともに活動することで、看護職者が通常の看護実践を行いながら、コロナ患者への対応をしていることを知り、エンパワーされた。

5. 感染症の経過が見通せず学生の臨地実習の経験が制限されている中で、教員が臨床看護師と協働し、役割移行期にある新人看護師に対し技術支援やメンタルサポートを行うことの可能性と必要性が示唆された。次年度の新人看護師への教育・支援について考える契機となった。



ご清聴ありがとうございました。

この取り組みは、
慈恵医大地域連携看護学実践研究センターの
活動の一環を紹介したものです。
皆様との意見交換を楽しみにしております。

